

性的マイノリティ

「支援」・「理解」の 一歩先へ

日本のクィアペダゴジーの歴史から考える

2016年に文科省が「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」を通知して以来、学校教育現場においても性的マイノリティを「理解」・「支援」する動きが徐々にみられてきています。しかし、そこで意図されている「理解」・「支援」とは、性的マイノリティを「特別扱いすればよい」というものであり、その姿勢には大きな問題があるのです。

実は、日本では1980年代後半からすでに「特別扱い」ではない教育実践である「クィアペダゴジー」がなされています。あまり知られていない「クィアペダゴジー」とはそもそも何か？性的マイノリティを「特別扱い」するのではない方法で、かれらにとっても居心地の良い環境を作っていくために、私たちに何が出来るか？また、何を知っておかねばいけないか？一緒に考えてみましょう。

参加形態 ハイブリッド開催（※どちらも要申込）

日時

2022.11.16 (水)
18:30 ~ 20:00

対面会場：池袋キャンパス8号館8202教室

オンライン配信：ZOOMウェビナー

定員 500名 申込締切 11月12日(金)

お申し込みはこちら <http://s.rikkyo.ac.jp/64df3a1>



(参加無料)

講師

ほり かわ しゅう へい

堀川 修平氏

(埼玉大学、立教大学ほか非常勤講師。一般社団法人「人間と性」教育研究協議会幹事)

1990年北海道江別市生まれ。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。専門は、日本の性教育実践と実践者の歴史・性的マイノリティ運動の歴史。

主な論文として、「日本のセクシュアル・マイノリティ運動の変遷からみる運動の今日的課題—デモとしての『パレード』から祭りとしての『パレード』へ—」(日本女性学会『女性学』23、2015)、「人間と性」教育研究協議会における性の多様性に関する実践史—教育者の同性愛観に着目して—」(同時代史学会『同時代史研究』11、2018)、『気づく 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー—』(エイデル研究所、2022)が初の単著である。

主催・お問い合わせ 立教大学ジェンダーフォーラム

<https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/>
e-mail: gender@rikkyo.ac.jp tel: 03-3985-2307

